

「少年の日の思い出」(1年 読むこと)

授業者：牧野 高明

1 本題材における『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿と『学習の個性化』を促す手だて

「学習の個性化」を充実することで期待する生徒の姿

- ・これまでの学習で身につけた力や知識・技能を関連付けて課題を解決する姿
- ・見通しをもって学習に取り組み、課題解決の方法や学習の進め方などを自ら調整する姿

「学習の個性化」を促す手だて

- ①「言葉のお道具箱」の活用
- ②「探究活動シート」の活用
- ③生徒が自らの学びを省察できる場面の設定

2 題材の展開および『学習の個性化』を促す手だての具体と生徒の姿

第1時

○本題材の課題を確認し、『少年の日の思い出』を通読する。

第2時

○共通テーマ「エーメールは本当に嫌なやつなのか」について考える。

第3時

○探究計画を立てる。

①「言葉のお道具箱」の活用

「言葉のお道具箱」とは、ロイロノートの共有ノート機能を活用してクラスごとに作成した、これまでの学習履歴を蓄積したものである。クラス全員と教科担任で共有しており、生徒が主体となって編集し、習得した言語技能とその具体が可視化されている。

「言葉のお道具箱」の活用を通して、自らが習得した言語技能を自覚化し、自らの課題を解決するために必要な言語技能を選択したり関連付けたりしながら、課題解決に向けて計画や分析を進める生徒の姿が見られた。



②「探究活動シート」の活用

計画時に問いや課題解決の方法、探究の進め方を整理させることで、生徒は見通しをもって探究学習に取り組んでいた。

また各時の最後には、「探究活動シート」を活用させることで、自らの学習状況を振り返り、必要に応じて問いや課題解決の方法、探究の進め方を再検討し、自らの学びを調整する生徒の姿が見られた。

探究活動シート 毎時簡便表 Swift / 覚識

探究テーマ
この物語の伝えたかったことは何か
→エーメールが「僕」に与えた影響から考える～

探究の目的
課題解決の方法 (どんな言葉技能を思い出し、どのように分析するか?)
言葉と印象→聞き手(物語中の「私」)に「僕」はどのような印象を持たせているのか
描写と心情→「僕」の心情/「私」から見た「僕」もわかるか?【物語の冒頭】
構成→現在の「僕」が思っているからこそのわかる!! 現在の「僕」の考え方

探究①

計画 (7分まで)
この物語の印象を探究する
現在の「僕」の性格を全体の話し手から考える

現在
「僕」がエーメールに初めて嫌がる前まで(⑤～⑩)の描写の印象、「僕」の心情を予想、考察をする。

振り返り
「僕」の心情を予想し、その後の描写と心情を照らし合わせて考察する。

メモ
中間発表会を通して明確になったことまでの成果
・文中の描写の対比→その場の主人公の心情
・描写同士の状態→現在の過去の心の違い
・文中の言葉の使い分け(描写の長さ/口調など)
→人物像作成に繋がりやすくなる

探究②

計画 (7分まで)
この物語の印象を探究する
現在の「僕」の性格を全体の話し手から考える

現在
「僕」がエーメールに初めて嫌がる前まで(⑤～⑩)の描写の印象、「僕」の心情を予想、考察をする。

振り返り
「僕」の心情を予想し、その後の描写と心情を照らし合わせて考察する。

メモ
中間発表会を通して明確になったことまでの成果
・文中の描写の対比→その場の主人公の心情
・描写同士の状態→現在の過去の心の違い
・文中の言葉の使い分け(描写の長さ/口調など)
→人物像作成に繋がりやすくなる

第4・5時

- 探究計画にもとづいて探究活動を進める。
- 学習の振り返りをする。

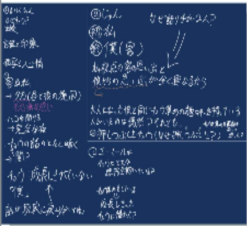
第6時

- 中間報告会で前時までの探究の成果と課題について交流する。
- 探究活動シートを整理する。

③生徒が自らの学びを省察できる場面の設定



中間報告会

メモ	中間報告会を通して明確になったここまでの成果
	チョウに対するそれぞれが抱いている感情や、描写の変化を見ると、チョウは「成長しきれない自分」を表していた、押し演じた理由は、「チョウ集めをする資格がない」「罪悪感から逃れようとした」「自分のチョウもクジャクヤママコと同じように取り返しのつかなくした」などがある。これを踏まえて私も結論を出していきたいと思った。
	中間報告会を通して明確になった今後の課題・新たな疑問
	<ul style="list-style-type: none">・チョウの描写での描かれ方・チョウに向けられる登場人物の思い

本題材では中間報告会という場面を設定した。ここまでの探究の成果と課題について交流する「協働的な学び」の場面を設定することで、生徒それぞれの学びの成果と課題が明確となる。

それらを踏まえて探究活動シートを整理させることで、問いや課題解決の方法、探究の進め方などの自らの学びを省察し、次時以降の学びがよりよいものとなるように吟味・調整する生徒の姿が見られた。

第7・8時

- 探究計画にもとづいて探究活動を進める。
- 学習の振り返りをする。

第9時

- ポスターセッションで探究の成果を発表する。
- これまでの学習を振り返る。

3 本実践の成果と課題

「『学習の個性化』を促す手だて」を講じることによって、本題材において国語科で想定していた「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」を生徒の実際の姿として見る事ができた。「『言葉のお道具箱』の活用」が「これまでの学習で身につけた力や知識・技能を関連付けて課題を解決する姿」、「『探究活動シート』の活用」が「見通しをもって学習に取り組み、課題解決の方法や学習の進め方などを自ら調整する姿」の実現に対して、それぞれ有効だったと考える。さらに、本単元の中間報告会のような「生徒が自らの学びを省察できる場面の設定」が、生徒の学びの視野を広げたり深めたりすることにつながり、生徒が自らの学びをよりよく調整するために有効に働いたと考える。

一方、「言葉のお道具箱」のよい点でもあり課題でもあるのが、生徒が主体的に整理していくスタディ・ログだという点である。どうしても整理の具合に学級差が出てきてしまう。ただし、生徒が主体的に整理していくからこそ、生徒にとってより実用的で活用しやすいものになっていくのではないかと思う。今後も検証を続けていきたい。また、生徒が自らの学びをよりよく吟味・調整できるようするために、「探究活動シート」を活用した生徒へのフィードバックなどについても今後追究すべき必要性があると考えている。